

令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：胆振地区
- 2 事例報告学校名：室蘭市立蘭北小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 小野 由美子
- 4 キーワード：「室蘭市子ども未来指針」具現化に向けて

1 はじめに

蘭北小学校は、高平小学校と本輪西小学校が統合し、今年度開校10年目を迎える。現在、11学級（特別支援学級2を含む）、248人が在籍している。卒業生のほとんどが港北中学校に進学する。中学校との連携を進めながら、「室蘭市子ども未来指針」の具現化に向けて、小・中一体となったふるさと学習や学校運営協議会の充実を推進している。

2 「室蘭市子ども未来指針」具現化のための ～中学校区グランドデザイン～

室蘭市教育施策の大綱・教育目標は「一人ひとりが夢を持ち 新たな時代に挑戦する力、生きる力を育む」である。令和7年度は「室蘭市子ども未来指針」の完全実施の年を迎えている。市内の小・中学校が義務教育9年間の教育を創り上げるためのグランドデザインを作成し、学校・家庭・地域が一体となった教育を実現することにより、子どもたちの「自己有用感」を高め、「生きる力」を確実に育むことを目指している。

◇室蘭市の学校教育が抱える四つの課題

- (1) 「自分にはよいところがある」と回答する子どもが少ない。
- (2) ふるさと室蘭に、愛着をもつ子どもが少ない。
- (3) 不登校出現率が、全国に比べて高い。
- (4) いじめ発生率は、全国と比べて高くはないものの継続発生している。

◇教育目標の実現と課題解決への二つの柱

- (1) 小・中一体となった教育（9年間の計画的、系統的な学習）
- (2) 家庭・地域が参画して、学校と一体となった教育

グランドデザイン

【蘭北小・港北中】具現化のためのグランドデザイン		各中学校区における「目指す十五歳の姿」の実現												
学年	教育目標	教育活動の推進												
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1	中2	中3	計画的			
1	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
2	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
3	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
4	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
5	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
6	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
7	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
8	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
9	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）
10	「求める15歳の姿」の着実な共有と実践（学校経営・教育活動）

3 柱1：小・中一体となった教育 ～ふるさとの魅力ある教育の推進～



〔3年生 追直漁港見学〕
室蘭は、北海道で捕れる魚のほとんどの種類が捕れる豊かな漁場であることを学ぶ。捕れたばかりのカレイ・カニ・タコなどに触れることができ、楽しみながら理解を深めている。



〔4年生 DENZAI環境科学館見学〕
楽しみながら科学の仕組みを学んでいる。プラネタリウムでは「今夜、蘭北小のグラウンドに立つと南の空に見える星」を見せてくれる配慮により、更に星空への関心を高めている。



〔5年生 日本製鉄見学〕
日本製鉄では日本の鉄の40%を生産していることを学習する。世界に誇る技術や様々な設備を間近で見ること、鉄のまち室蘭への理解を深めている。



〔6年生 函館どつく造船所見学〕
室蘭製作所では、大きな船の製造を間近に見ることができる。船の製造・修理や橋梁技術を活用して、室蘭市が誇る白鳥大橋の保全にも貢献していることを学んでいる。

小学校の見学学習等で「ふるさと室蘭」のよさを学んだ子どもたちは、更に中学校で学びを深めている。

4 柱2：家庭・地域が参画して、学校と一体となった教育 ～学校運営協議会の充実～

- (1) 室蘭市の体制
室蘭市には小学校8校、中学校6校、義務教育学校1校があり、各中学校・義務教育学校区で学校運営協議会を開催している。令和7年度からは、CSコーディネーターが配置され、学校と地域をつなぐパイプ役として重要な役割を果たしている。
- (2) 港北中学校区の取組
本校区では「求める15歳の姿」を地域と共有しながら子どもたちの成長を見守り育てている。年に4回、学校運営協議会を開催しており、小学校・中学校の授業参観や、運営委員同士のグループ協議を通して交流を深めている。



<学校菜園の畑起こし>

<図書ボランティア>

- (3) おわりに
教育活動の中に可能な限り地域人材が参画し、様々な人との関わりの中で、子どもたちの自己有用感を高める取組を進めることが大切である。そのためにも、今年度から配置されたCSコーディネーターの効果的な活用を図り、地域の中で子どもたちを育てていくという視点を大切にしながら「室蘭市子ども未来指針」の具現化に向け取り組んでいきたい。